

**看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会（第1回）
における主な意見について**

1. 看護学教育を取り巻く背景について

○2040年の社会を考える時に、「認知症基本法」ができたので、共生社会の実現についても盛り込む必要がある。

○卒後の高度実践について言及するのであれば、特定行為研修だけでなく、大学院での教育である専門看護師など他の資格もあわせて記載すべき

2. 改定の基本方針について

○2040年の社会を見据えた改訂について、より具体的な表現として、「全世代を対象とした地域包括ケアシステムの構築」という記載を含める。

○多様な場面の括弧内に、場の追加として「介護保険施設、事業所」含める。

○現状、実習で行える部分が限定的であるので、実習で習得できる部分、特にできていない診療の補助の部分を増やしていく必要あり。

○医学コアカリには実習ガイドラインがある。看護でも、この部分は絶対に臨地実習で学修すべき、この部分はシミュレーション教育で学修可能等、明記すべき。コアカリとは別立てでもよいので、実習の指針、臨地との連携の方略等も示す必要あり。

3. 改訂内容に反映させる今後の看護学教育に関する意見

○医療機関に就職しても、地域・在宅での生活を視野に入れたケアができる人材養成。

○新興感染症については、予防の視点も重要

○今後少子化の進行で養成人数を増やすことは難しいため、限られた人数で国民の求めに応じるために、1人の看護師がより幅広い能力を身に着けることが必要である。

○AACNの10のドメインでは、日本の看護学教育の弱い部分が含まれているので参考になる。

4. コアカリ改訂調査研究について

○資料5、p5<事業1>「医療現場の課題等を解決する方策を検討する」という意味○意図は？→コロナ禍で、学生が実習場に出られなかった。そういう状況でも医療現場の一員として実習に入れるように学生を位置付ける。

○資料5、p5<事業3>「領域」という用語は何を表すか？従来の領域にとらわれず、柔軟に考える必要あり。

- 資料 5、p6 について、Chat 型 AI インタビューとはどのような内容か？→半構造化インタビューに近い方法であり、対話型のチャットで、ブラウザ上で質問に答えていくシステムを構築する。AI に様々な情報を学習させ、回答内容によっては追加の質問がなされるようにする。事例をベースにして、どのような能力が必要か尋ねるようにすると、看護師は答えやすいのではないかと考えている。
- 資料 5、p6 について、対象者には、学生、患者、家族、市民も含めた方がよい。模擬患者として協力している市民の意見は有用ではないか。→そのような人々も対象に含めたい。

5. スケジュールについて

- スケジュールについて、第 1 回と第 2 回の間に進捗についてどのように情報共有してもらえるのか。12 月の調査研究報告書提出後くらいに、内容について意見を出せないか？第 2 回委員会で、成果物だけを見て判断するのは難しい。→委員会を全 4 回の開催とし、第 2 回委員会は令和 6 年 1 月～4 月頃に開催とする。

6. その他

- 新卒の離職率が上がっている。臨地実習と卒後研修とのつながりが重要であり、ギャップを埋めることが退職の防止につながる。
- 看護学教育モデル・コア・カリキュラムは、定期的に改訂されるよう記載を入れる。
- ボリュームが増えすぎると運営への困難に懸念がある。
- 実習の現状として、附属病院のある大学でさえ、他にも多くの病院等に実習に行っている。実習費は高く、教員は基本的に張り付きなので負担も大きい。
- コアカリ活用状況調査の結果について、追加したほうがよい項目の「看護教育」については、表現の見直し必要
- 参加型実習ができない理由として、医療安全の部分の法的解釈がある。違法性阻却についても関係している。